

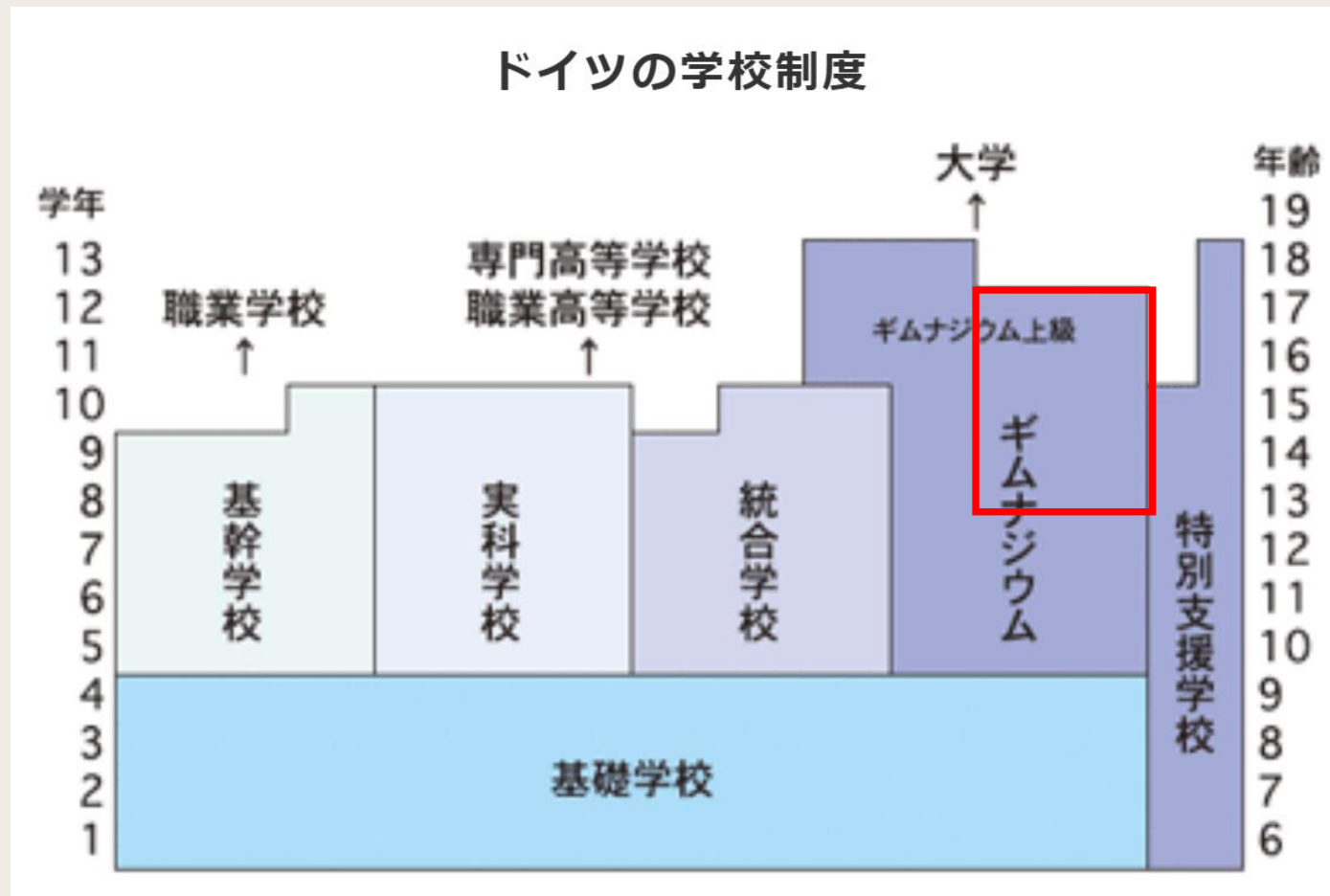
ドイツの中等教育において CEFRの理念はどのように実現 されているか

松尾馨

(ドイツ・シュタインバートギムナジウム)

中等教育事情

- 日本語学習者数：約1900人
- 日本語を提供している学校：約53校
- 2011年から、正規の日本語教員養成が開始。



アビトゥア（大学入学資格試験）

■ 筆記試験(州作成・教員2名が採点)、口頭試験（教員作成）のどちらか

■ 「社会文化オリエンテーション知識」のテーマから出題

日常生活と職業世界のアスペクト

学校生活、仕事、余暇や消費活動の変化、
教育システム、進学、就職

青少年の生活および経験社会

家族と友達、趣味、ハイテク、住環境

歴史的及び文化的発展

地理的特徴、祭りと伝統、食文化
文明開化、宗教、価値観の変化、
過去との訣別

グローバルな課題及び未来のデザイン

経済生活のアスペクト

現在の政治的及び社会的議論

人口動態

外国語の指導要領から



日本語（**外国語**）の新指導要領



■ NRW州の例

2009年 前期中等段階の新中核指導要領

(Kernlehrplan, KLP)

2014年 後期中等段階の新中核指導要領

■ 日本語、英語を含む**11か国語**の中核指導要領
が施行された

新外国語指導要領の基盤となった 枠組み



CEFR (2001)



教育スタンダード
(第一外国語)



教育改革と教育スタンダード

- PISAショック (2000)

国際比較によりドイツの学力不振が明らかに

- 2002年に**国家レベル**での「教育スタンダード」の策定が決定。(常設各州文部大臣会議 (KMK))

→各州に主権があるドイツでは**異例**

→ドイツ語、第一外国語、数学

+生物、化学、物理 の科目のみ

NRW州 日本語（外国語）の 新指導要領

■ 特徴 1

異文化間能力の重視

■ 特徴 2

コンピテンス基盤型への転換

■ 特徴 3

通常試験及び大学入学資格試験（アビトゥア）の内容及び方法の変更

異文化間能力の重視



教育スタンダード（第一外国語） -1 前期中等段階

基幹学校(9年生、2004)、前期中等段階(10年生、2003)

外国語教育の意義：

- **異文化間能力**（interkultureller Kompetenzen）の養成を通して、**実直で、我慢強く、民主的な市民**を育てること。これは、学校の**教科横断的**な課題であるが、外国語教育は特に寄与できる。

KMK (2004) Bildungsstandards für die erste Fremdsprache (Englisch/Französisch) für den Mittleren Schulabschluss. S.6

教育スタンダード（第一外国語）-2

前期中等段階

- 異文化間能力や、自分自身の見方、価値観、多文化を忍耐強くかつ批判的に比較する社会的関連性を身につけ、また、異なる考え方、暮らし方、価値観、規範に対する心構え、興味、理解を育てることで、生徒たちは、自身のアイデンティティを強め、成長することができる。

教育スタンダード（第一外国語）-2

前期中等段階

- テーマ・内容を中心としたオリエンテーション知識
+ 異文化コミュニケーション能力
- 複言語性を含んだ個人の間人形成へ寄与

NRW州中核指導要領-日本語 ギムナジウム後期中等段階（2014）

- 大学での研究や職業準備への社会的要請に応じて、ギムナジウム上級段階の日本語の授業には「異文化間行動能力 interkulturelle Handlungsfähigkeit」という主目標が課せられている。

- Ministerium für Schule und Weiterbildung des Landes Nordrhein-Westfalen (2014) Kernlehrplan für die Sekundarstufe II Gymnasium/Gesamtschule in Nordrhein-Westfalen Japanisch. S.11-12

NRW州中核指導要領-日本語 ギムナジウム後期中等段階（2014）

全教科横断的な課題である「異文化間行動能力」の養成を通して、日本語の授業もまた、ステレオタイプの秩序づけへの批判的省察、価値教育、感情移入と連帯性、社会的責任の構築、民主的社会の形成、次世代への持続可能な発展という意味での文化形成などに与ることができる。

- Ministerium für Schule und Weiterbildung des Landes Nordrhein-Westfalen (2014) Kernlehrplan für die Sekundarstufe II Gymnasium/Gesamtschule in Nordrhein-Westfalen Japanisch. S.11-12



ドイツの伝統的な政治教育

- 政治教育は、市民が、自分で**判断**し、**自己決定**ができるようになるための、知識と能力を身につけること、自分の状況を**振り返り**、**自己責任**と社会への**有責性**を認識し、そのプロセスに関与できるようにすることを目指す。
- 自由で開かれた社会の重要な要素であり、「**戦う民主主義**」を強化する。

具体例 1 : 価値判断を求める試験問題

日本語アビトゥア試験の例

全体的理解を問う

テキストの内容に関して、自分の学習した知識を活用して説明する

とい

1. このテキストはだれがどんな形で書いてあるか。また、内容を要約しなさい (約 150 字)。 (12 Punkte)

2. 日本の若者のケータイやスマホの使い方とそのことを書きなさい (約 250 字)。
ある問題について、自分のやり方で解決、理由付け、価値づけ、結論を見出し記述する 【価値判断】

3. あなたはボランティアについてどう思いますか。あなたは、「アビトゥアの後で、皆^{みんな}ボランティアの仕事をしなければならない」というアイデアはどう思いますか (300 字以上)。 (20 Punkte)

具体例 1 : 価値判断を求める試験問題

評価基準

- (問題 3) 次の事柄をのべているかどうか
ボランティア活動を義務化する利点
ボランティア活動を義務化する問題点
自分の意見とその理由づけ

■ 配転

内容点	48 (12、16、 20)
言語表現	48
言語の正確さ	24

第一採点者と第二採点者の差が大きい場合は、第三採点者も評価

具体例 2 : 現場教師の教室活動例

【日本語以外の外国語の教員より】

見方を転換する練習

ロールプレイ

ディスカッション

具体例 2 : 現場教師の教室活動例

【日本語の教員より】

個人を尊重する授業

欧州中心主義的な考え方に気づく

(日本事情) 文化の違いに気づき理解する

(言語) 適切なものの言い方を選べる

コンピテンシス基盤型へ



教育スタンダード（第一外国語） 前期中等段階

- インプット志向から**コンピテンス基盤型**の
アウトプット志向へ転換
- CEFRの考え方を導入し、語彙、文法、文構造
から学習を始めるこれまでの**伝統的校外
外国語教育**は、教育スタンダードでは、その
バックグラウンドと位置づける。

KMK (2004) Bildungsstandards für die erste Fremdsprache (Englisch/Französisch) für den Mittleren Schulabschluss.

NRW州の中核指導要領における コンピテンス

コンピテンスとは、

個人が学習可能な認知能力を用いて、特定の
問題を解決する能力や技量をさす。その際
に、異なる条件でも問題解決をうまく導く
ために、責任感を持って成し遂げるための、
モチベーションや意志、社会的態度・能力
も含む。(Weinert 2001, S. 27f.)

NRW州のコンピテンス・モデル



コンピ テ ン ス 言 語 学 習	異文化間コミュニケーション コンピテンス 理解 行動 知識 見解 意識	言 語 意 識
	機能的コミュニケーション コンピテンス 聴覚/視聴覚理解 読解 書く 話す 言語仲介 言語使用とコミュニケーション手段	
	テキスト・メディア コンピテンス 口頭 筆記 メディア	



教室で見られた変化

(現職教員からのコメント)

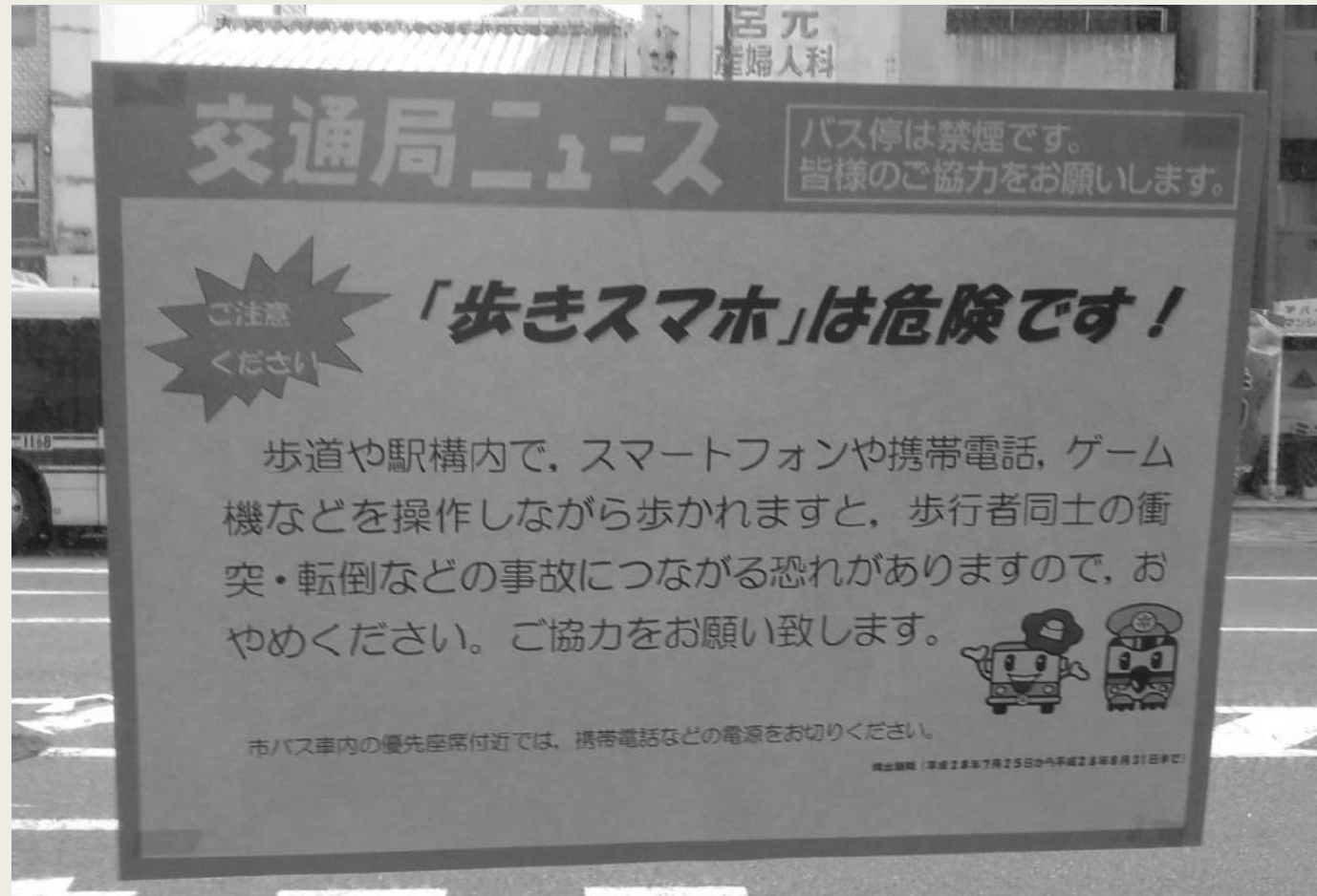
- 以前よりも生徒が、よりたくさん話し、書く授業へと変化
- 以前よりも早く話せるようになった
- より実践的に
 - * 練習や繰り返しが減って残念

試験の内容変更



変化1 「言語仲介」試験の アビトゥアへの導入

■ 言語仲介 (Sprachmittlung) (日本語の例)



変化1 「言語仲介」試験の アビトゥアへの導入

■ 言語仲介 (Sprachmittlung) (日本語の例)

(音声または書記) テキストの内容を、その言語がわからない相手に、**その人の状況に合わせた形**や内容で、もう一つの言語で伝える。

日本語があまりわからない友達が日本に旅行し、ある写真を送ってきました。それは、日本のバスの中で撮ったポスターの写真です。そのポスターの内容を、ドイツ語で友達に説明するEメールを書いてください。その際、必要に応じて文化的な背景も説明してください。

変更2 「口頭能力」試験「聴解」試験 通常試験への導入

- 3年間で10回行われる筆記試験のうち1回を、口頭試験で代替することが義務化

前半：短いスピーチ

後半：ペアまたはグループでのやりとり

- 通常試験の問題の一部に「聴解」問題を導入することが義務化

問題点と課題

教員の様々な教育「信念」をどう乗り越えるかー 1

- コンピテンスや内容中心の授業だと、文法などの言語学習がおろそかになる。（非母語話者日本語、経験20年～）、大学で日本語を専攻する際に困る（非母語話者日本語教員、経験20年～）
- コンピテンスモデルが導入される前から、文法や語彙のコンピテンスを目指している！（非母語話者日本語教員、経験20年～）

教員の様々な教育「信念」をどう乗り越えるかー2

- **インプットなしに、コンピテンスの習得は不可能！** アウトプット志向はナンセンス！（英語教員、経験10年～）
- **「仲介活動」は意味がない。** 「翻訳」でよい
(非母語話者日本語教員、経験20年～)

教員の様々な教育「信念」をどう乗り越えるかー3

NRW州の場合

- 現役教員対象の**研修**の実施
- 「**学校内指導計画**」公開の義務付け
各学校で各科目ごとに作成。州の査察が入る。
- **教員養成**教育のインパクト
 - 言語の教師への影響
 - 学校教員が実習生の指導要員を選出

ありがとうございました。